

# 第1回島田市ゆめ・みらい百人会議（市長との意見交換会）会議要録

## 1 日時

平成25年10月19日（土）12:15～13:15

## 2 会場

島田市役所会議棟大会議室

## 3 出席者

委員：30名程度

島田市：染谷市長

事務局：石間企画部長、大石企画調整課長、秋山企画調整係長、駒形主査、岩本主査、小松主事

## 4 概要

出席した委員と市長、企画部長及び企画調整課長の意見交換を行った。

委員：川根図書館の委員であるが、ほとんどの場面で事務局の意見を押し付けられている。庁内で、委員の意見が止まっているようであるがどうか。

市長：状況について今お聞きしたので、確認します。

委員：島田に来て10年であるが、山川草木、緑が豊かで、住民が親切で、見知らぬ人にも挨拶してくれる非常にいいまちである。川根に鉄筋コンクリートの構造物を作るのはばかげている。職員でも意見を出し合ったのか。伊太和里の湯は、非常に和やかな建築物でよい。建物にはモニュメントの存在が重要である。病院は、現在の敷地に建設したほうがよい。建築設計は大手建設会社に依頼したほうがよい。

市長：市民の皆さまに誇りを持っていただけるようなまちづくりをしていきたい。市でも、コンペをし、きちんとした審査をして決定している。自分は、結果報告受けるだけであり公正な判断がされている。川根温泉ホテルについては、自分が就任する前の話であり、市民の代表である議会の議決も受けている。したがって、粛々と進めていく。過去のことについては発言を控えさせていただきたい。

委員：市の現状を見るとときにHPの借金時計を参考にして欲しいということであったが、問題があると思う。ひとつは、借金の貸主の情報がないこと。また、貸主の資産構成が無いので、判断できないのではないか。

企画部長：市の借金は、国から借入れをしている。

委員：市民の不安をあおるのではないか。一般的には、景気が悪いときには借金が減り、景気がいいときには借金が増える。行政の場合はその逆になる。今は景気が悪いので、借金を増やしてほしい。

企画部長：おっしゃる観点は分かるが、借金時計は、市民の皆さまにわかりやすいように、ひとりあたりの借金を把握し、他市等と比較できるようにということで公表している。

委員：やめたほうが良いと思う。

市長：これまでまったく情報公開されていなかったもので、起債残高等について市民の皆さまに分かりやすい方法で公表することにした。実感を持っていただけるような表現にした。おっしゃる意味は分かるが、このまましばらくは公表していきたい。

委員：総合計画の前期5年間の各施策の進捗状況について検証、分析したものを教えてもらいたい。それを次の4年間の計画に生かしていく必要があるのではないか。現在の計画は、すばらしい文章になっているが、島田市として現実味のある計画にしていくべきではないか。

委員：この百人会議は、市長のマニフェストにも掲げられ、注目されている。これから、各団体や百人会議の提案が出てきて、どれを盛り込むか市長は選択を迫られる。前の市長の積み残しもある。様々な意見をどうやって反映させるのか、百人会議の立ち位置はどうか、市長の考えを聞かせてほしい。

市長：この百人会議に相当な意気込みを持っている。牧之原市では、大きな声をあげる人、自分の意見を主張する人が多く、嫌になる人が多くなりやめてしまった。その後、やはり自治会から意見を出してもらうのが一番いいということになったと聞いている。しかし、それでも今回委員を公募した。というのは、各団体から要望をいただく機会はすでにあるが、市民の声を聞く機会がなかったからである。だから絶対に失敗したくないと思っている。この結果が、全て総合計画や行政の計画に活かせるとは思っていない。現在、自治会等からの要望には、職員にチームを組んで、すぐに現場を確認するようにさせている。そして、できることはすぐに対応し、国や県につなぐものはつなぎ、できないことはなぜできないのかをきちんと伝えるようにさせている。そのことを地元で文書で伝えている。そうすることで、市民との信頼関係が紡いでいけると考える。これからの様々な課題の優先順序をどうするかを決めるときには、公平公正ということを考える。まず、自分に私利私欲無くということ、コンペの結果や採用試験などを行っていく。これらは、昔からきちんと行われてきていたということをも自分で検証した。たくさん的人数で点数化されており、自分のところには結果のみが報告される。これまでやっていたが、住民の皆さまに知られていないことがまだ多くあるので、十分に説明していきたい。来年度は、公共施設白書を作り、優先順序が目に見える形にしていく。これからは、やらなくてはならないことがたくさんあるので、派手なことはやれないかもしれない。そういう思いでこれからの行政を進めていきたいと考えている。

委員：この百人会議への期待値は分かるが、最終的にまとめるものが意見書なのか提言書なのかもはっきりしない。また、ふせんに書き出す方法の会議には何回か出席しているが言いっぱなしになってしまう。百人会議全体で意見書を出すのか、分科会で出すのか。また、総合計画審議会では「百人会議という屋上屋を作っているのか」という意見も出ている。よって、この会議の期待値をもう少しはっきりさせてもらいたい。

市長：総合計画策定に当たっては、様々な意見を聞きたいと思っている。中には、そんなに意見ばかり聞いてどうするのかという声もある。最後は、私が判断させていただくと回答したが、どこで声を聞いても同じような意見が出てくる。実際に話をする中で、肌で感じ取れるものがあると思うので、皆さまのお話やご意見を伺うことをしていきたい。この会議の失敗というのは、意気込んでいる方ががっかりすることであると思う。参加してよかったと思ってもらえることが成功だと思っている。そのために、必要な資料があれば行政からも出していきたい。だからといって、全てを実現できるわけではないが、市について知ってもらい、やはり自分たちも動かなくてはならないと思っていただけたらありがたい。行政は、これからは全国的に見ても拡

大・拡散していく時代ではない。市民の皆さんが満足するまちというのは今までとは違うと思っている。そういう意味でも、市民の皆さんの力は大きいと思っている。

委員：市民に期待するということが、逆に行政に期待したいと思っている。これまで、民間、協働という言葉で逃げていたと思う。会社でも従業員がやる気になれば、2倍、3倍の力が出る。職員がやる気になるような施策を取ってもらいたい。ひとつの提案として、この百人会議に自分たちはボランティアで出ているが、市の職員も市民のひとりとしてボランティアとして一緒に活動していただきたい。富士市などはひとり1ボランティアということをやっている。また、先ほどの説明で、市の担当職員を派遣しないということだったが、オブザーバーでもいいので専門的な職員を参加させてもらいたいと考えている。

市長：私自身も職員の意識改革に取り組んでいる。市長を向いて仕事をするのではなく、市民の皆さまのほうを向いて仕事をする、現場だからこそ分かる課題があるので、上から言われてもそうではないときちんと上にあげる、またそれを解決する力を応援する部課長であってほしいと庁議でも言っている。なかなかすぐには難しいが、市民の皆さんから変わったねという声も多く聞くようになって大変嬉しく思っている。職員を褒め、きちんと叱り、行政の中から変えていきたいと思っている。また、職員はマラソン大会など、結構ボランティアに参加している。気が付いたときには、職員を褒めていただけるとありがたい。

委員：障害者のことを決めようとするときに、数が多くなくあまり声があげられないという現実がある。今日の会議には車椅子の人が数名いたが、ここにはいない。というのは、移動するのにあらかじめ送迎サービスの申込をしなくてはならないので、自由に動けないからである。こういった現実を市に伝えても、なかなか対応してもらえない。そのうちの1人は、月に2回しかそのサービスを利用できないので活動が制限されてしまうと言っていた。ベースが全て、健常者で決められてしまうので、百人会議ではそうしたことも直してほしい。今年、障害者差別解消法が制定された。障害者の差別禁止法を望んでいたが、解消法となってしまった。百人会議で提案したことが、100とは言わないがなるべくいかしてもらいたい。

市長：ひとつひとつの課題を伺えば、本当にそうだと思うが、限られた財政の中で全てはできない。したがって、行政も考えていくが皆さんの中で支えあいができるのであれば、それを伸ばしてもらいたいと思っている。例えば、地域の中でお年寄りが病院に行けなくて困っているのであれば、地域の中で少し時間がある人がやれないかということを考える。もし、そうしたことをやっていただければ、それを行政が支援することはできる。ぜひ、よろしくお願ひしたい。

委員：自分はこれまで霞ヶ関で役人をやってきて、地元に戻ってきた。市民意識がなぜ育たなかったのかを考えると行政の責任があると思う。ここ数年、市の職員と話す機会があったが、市の職員の議論の進め方などに問題があると感じた。こちらに戻ってきてからNPOを立ち上げ、どうしたら住む人たちの意識改革ができるか取り組みをしている。NPO法人は毎日のようにできては潰れていく。経営が苦しいからである。島田の税金が非常に高い。私のNPOも初年度は税金が高くて赤字であった。今も税金をやっと払っている。地方自治体の仕事は、意識を持った市民をいかに育てるかであると考えている。百人会議の要綱第6条では、資料の提出について「認めるときには」と定められている。百人会議としての要望があれば、というのは役人的な言い方ではないか。市民が客観的な判断するための情報は、常に提供してもらいたい。情報をどう捉え分析するかの力が市民に求められている。人づくり、市民づくりというのであれば、そこ

から取り組んでもらいたい。

市長：私自身も行政の人間ではなかったのですが、行政と市民の意識のズレがあるということは重々承知している。行政は変えていくのは時間がかかると感じている。今、一生懸命やっていることが見えるようになるのは来年の4月、もしくは再来年の4月になる。民間は、スピード感を持ってどんどん変わっているので、行政もスピード感を持ってやれることはやらなければならないと思う。資料をどう捉え、分析するのか、それが島田の市民力としてここで育っていくのかにかかっている。そのバロメーターとして、この百人会議は大きな市内外の皆さまが注視していると思う。NPOを育てていくことも大きな課題のひとつである。現実を見つめた中で、市民をどう育てるのか、行政も育っていくようにがんばるので、その信頼関係を紡いでいきたい。地方都市というのは、大都市と違って変化するのに時間はかかる。変えていくには時間がかかるので、一旦外に出て帰ってきた人、よそからここに来てくれた人、若い人、ひとつのことに夢中になってやれる人、そういう人がまちづくりにとても大事だと感じている。

委員：財政は、お金が足りる、足りないということではないので、貸借対照表を作成してほしい。何に対する負債なのかをはっきりさせてほしい。そうでないと、今後の島田市を議論できないのではないと思う。

企画部長：行政では単式簿記、民間では複式簿記を使っているので分かりにくいということで、平成20年度くらいから4つの諸表を作るようになった。民間の企業に近いものを作るように準備を進めているところである。ただ、行政の場合、例えば道路を作ってもそれを単純に資産に計上することができない。

委員：東京都が先進的に取り組んでいるので、そういった考え方を参考にしてはどうか。道路にしても、行財政改革の中でどのように捉えるのかを考えてはどうか。また、特別会計も全て組み入れないと議論ができないので、それもお願いしたい。

企画部長：病院、水道、下水などの公企業も加えて、負債がどうかということなどを出すようにしている。かなり進んできていると思うが、データも膨大であり、またこれまでとはやり方が異なるのでどのように扱うか、国のほうでもやり方を変えていくと思われる。

委員：大変なのは分かるが、大企業でも毎年やっており、行政がやれないことは無いと思うのでぜひ取り組んでいただきたい。

企画部長：取り組んでいく。

市長：難しいのは、バランスシートが行政と民間では全く違うことである。行政の場合、道路や橋脚などの売却できない資産をどのように計上するかなど全く違う。今回、市の監査委員に杉本先生という財政の専門家に就任してもらった。監査も厳しい目で見てもらっており、杉本先生からは、事業そのものに対し、本当に行政でやるべきことかということも見ていくと言われている。

委員：市としての百人会議の位置付けは。我々は、市長の諮問機関という意味もあるので、頑張っていきたいと思うが、市議会議員などからは、自分たちの存在はという意見が出ていると聞く。委員の中には、これまでの行政に疑問を持っていて参加している人も多いと思う。入札制度、お金の流れなど、疑問に思っていることが多々ある。市議も変えていく意思があるかと思い、初めて6月議会を傍聴したが、そのような意見がほとんどなくなりました。そうしたことを精査するようなことを考えているのか。

市長：先般の議会と同じ主旨の質問をされたが、私は自分の任期中のことなら責任を持って答えら

れるが、どの市長もこのまちをよくしたいと思って取り組んできたことなので、私は考え方が違うとしか言いようがないと答えた。今日、皆さんのご意見を伺い、言いたいことがたくさんあってここに集まったということがひしひしと伝わってきた。だからこそ大いに期待している。皆さまだからこそまとめられるものがあると思う。百人会議の位置づけについては、百人会議を最上位に捉えるというとは思っていない。自治会、商工会議所などは要望を持ってくるが、市民の皆さんにはそういった機会がない。そういう意味で、市民の声を聞く場として、他の団体と同じように市民の皆さまが日常の中で思っている疑問、課題、意識などを届ける機会があってもいい。それは、同等にしっかり捉えていかなくてはならないという思いでこの会議を立ち上げた。また、もうひとつ上の期待というのは、何度も言っているが、ここから新しい活動が生まれ、ここで育った人材が地域で活躍し、島田を変えていくリーダーになっていただく期待を大きく持っているのが、他の会議とは違うところである。

委員：前期の基本計画の達成度こそ公開すべきではないか。

企画調整課長：前期基本計画は今年度で終了するが、みんなで目指そう値が前期期間でどれほど達成されたのか、というのは12月頃に公開する素案に掲載している。全ての情報となると膨大になるが、要求があればその情報については公開ができる。